

## LMSのルーブリック (Rubric) 機能を用いた評価

本学のLMSにはルーブリック（評価基準表）機能が用意されていて、採点可能コンテンツ（課題、テスト、ディスカッション、ブログと日誌）に関連付けて使うことができます。

ルーブリックは、縦方向に評価の観点、横方向に到達レベルあるいは尺度を持たせた表です<sup>[1]</sup>。各セルにそのレベルの達成度を示す基準を、たとえば「～ができています」といったように何がどの程度までできたかを説明する文章で記述します。

LMSでルーブリックを使う際には、まずLMSでルーブリックを作成し、作成したルーブリックを採点可能コンテンツに関連付けます。右図にルーブリックの例を示します。この例では縦方向の5つの評価の観点に対して横方向の4段階の評価のレベルを設定し、それぞれのセルに点数と評価の基準を記述したルーブリックを作成しています。

採点可能コンテンツの評価の際には、右図の二重線囲み枠のセルに示されるように、ルーブリックの該当する観点のレベルの1つにチェックを入れます。これにより評価の観点ごとの達成度のレベルと点数を記録でき、合計点が自動的に計算されてLMSの成績管理に保存されます。

LMSでは、採点可能コンテンツに関連付けたルーブリックを学生にどのように公開するかを教員が設定できます。課題などに取り組む前に見せたり、採点結果とともに見せたり、全く見せなかったりすることができます。

理工学部情報電子工学科の情報基礎2では、LMSのルーブリック機能を用いていくつかの課題レポートの評価を行っています。この科目では、課題の指示とともにルーブリックを公開し、評価結果もルーブリックで返却しています。どの観点がどのような評価であるかを学生が理解できます。再提出を求められた場合には、どこをどのように修正すればよいかがわかりやすい点が学生に好評です。教員によるフィードバックが比較的容易にできることと、評価の基準を教員と学生が共有できること、単に点数だけでなく不足している点を学生に伝えられることがルーブリックを使用した利点といえます。

課題名	レベル	1	2	3	4
内容: デザインリポートの定義	0 (0%)	99 (99.9%)	100 (100%)	100 (100%)	100 (100%)
内容: 自分のデザインリポート	0 (0%)	99 (99.9%)	100 (100%)	100 (100%)	100 (100%)
内容: デザインリポートを高めるための	0 (0%)	99 (99.9%)	100 (100%)	100 (100%)	100 (100%)
レポートの構成	0 (0%)	99 (99.9%)	100 (100%)	100 (100%)	100 (100%)
レポートのフォーマット	0 (0%)	99 (99.9%)	100 (100%)	100 (100%)	100 (100%)

LMSのルーブリックの使用例

LMSのルーブリックは複数の採点可能コンテンツやコースで再利用することができます。ルーブリックを定義して、カリキュラムで共通して用いることで、学習目標の達成度を継続して評価することが可能です。たとえば、プレゼンテーションの力などは、一つの科目でプレゼンテーションをするだけでなく、いろいろな科目を通してその力を伸ばしていくことが望ましいと思われます。ルーブリックを使うことで長期的な視点で成長の記録を蓄積して振り返ることも可能になります。

LMSのルーブリック機能について、詳細は帝京大学LMSサポートサイトのLMS Tipsをご覧ください。

## 第123回LTセミナー

「ルーブリック ことばはじめ」

日時：2017年2月24日（金）15:00～16:40

会場：宇都宮キャンパス本部棟2号館101教室

講師：高等教育開発センター 加藤かおり先生

みなさまのご参加をお待ちしています。

[1] ダネル スティーブンス, アントニア レビ著, 佐藤浩章監訳, "大学教員のためのルーブリック評価入門", 玉川大学出版部, 2014

## LMS活用事例レポート

## 数学系科目における講義ビデオの活用例



今回は、理工学部情報電子工学科の上出哲広先生にお話を伺います。

**LT** どのようにLMSを使われているのでしょうか。

**上出先生** 担当している全ての授業の回に対応する講義ビデオ、スライド、オンラインテ

ストを載せています。担当科目のほとんどは通学課程と通信課程の数学系の科目です。講義ビデオは、授業時間中に行う講義を事前に収録したものです。

また、補助教材として、試験問題の解説ビデオ、当該科目の上位もしくは下位の科目の講義のビデオもあります。これらを宇都宮キャンパスのビデオライブラリに載せ、LMSから参照できるようにしています。これらの教材を提供することで、通信課程では、大学での対面授業（スクーリング授業）を除く全ての授業を完全eラーニングで実施しています。

**LT** 通学課程では、どのように利用されているのでしょうか。

**上出先生** 授業時間中での対面の講義を補助する教材として使っています。学生には、予習復習のほかに、授業中の質疑等で講義が予定通り終了しなかった場合にビデオを視るよう伝えています。また、eラーニング補講<sup>[1]</sup>の教材としても使っています。このほか、通信課程のスクーリング授業も含め対面授業において学生へのフィードバックを効率化するために、教室で講義ビデオを視聴してもらうことがあります。たとえば、小テスト終了直後に解答解説ビデオを視聴してもらい、その間に採点を済ませて返却したり、中間試験の解答解説ビデオを視聴してもらっている間に、学生を個別に呼び出して指導したりしています。

**LT** 実際に使ってみていかがでしょうか。

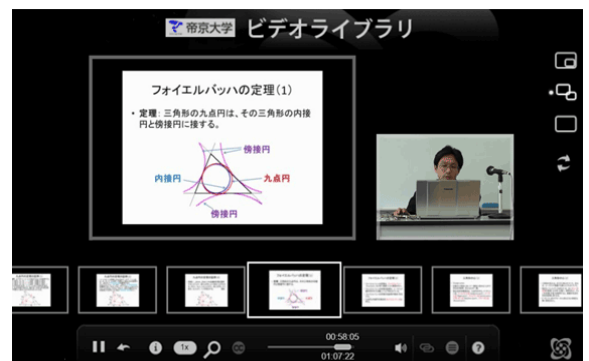
**上出先生** 講義ビデオを作成することによって、講

義資料の質が向上しました。ビデオ化のために、スライド作成の段階で教える内容の精選と精密化が行われるためです。黒板のみを使用した授業では教える内容が曖昧になっている場合が多く、実際にそれをスライドに落とし込んでみるとその曖昧さに気がつきます。一方で、ビデオの作成には多大な労力と時間を要します。通常の講義の5倍くらいの準備時間が必要です。これは、オンラインテストの作成においても同様です。また、このように教材を準備し提供しても、学習意欲の低い学生は活用しないこともわかりました。

**LT** 今後はどのようなことをお考えでしょうか。

**上出先生** 通学課程の科目の一部をeラーニング科目として開講してはどうかと思います。数学科目は個人競技なので、eラーニングとの相性が良いです。ただ、eラーニングにより、学習意欲やスキルの低い学生のドロップアウトを加速させる恐れがあることに注意する必要があるでしょう。また、ICT化がさらに進んだ将来では、大学は「サーバー大学」になると思います。すなわち、コンテンツが蓄積してあるサーバーさえあれば多くの教員は不要となる時代が来るのではないかと予想しています。

**LT** 時代とともに大学も教員も変化が求められるのでしょうかね。ありがとうございました。



講義ビデオの例

<sup>[1]</sup>eラーニング補講, <http://www.LT-Lab.teikyo-u.ac.jp/local/lmsvideopack/e-learning.html> (学内限定ページ)

## LMS Tips

- ◆ ルーブリックを課題評価などに活用する
- ◆ ルーブリックの作成方法

※上記のTipsをクリックすると詳細が開きます

Tipsは帝京大学LMSサポートサイトからご覧いただけます。( <http://www.LT-Lab.teikyo-u.ac.jp/lms-ss/> )

## 編集後記

今年は、地震や11月の積雪などの異常気象もありましたが、オリンピックや母校 作新学院の甲子園優勝など私的にはワクワクした年でもありました。「来年のことを言えば鬼が笑う」ということわざもあり、CMでも“鬼ちゃん”が笑っていますが、来年は心配も少なく、自身のことでワクワクできる年にしていきたいです。(渡部)

